

第161回 青森県立図書館協議会 会議結果

1 日時・場所

令和元年6月20日(木) 13:30～15:00

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 集会室

2 出席者

《協議会委員》 敬称略8名

木村 文江	白木 佳乃	前田 敏子	須藤 紀子
玉川 玲子	平野 陽児	小笠原 秀樹	鈴木 麻理奈

《図書館》

西谷 寿彦(図書館長) ほかに関係職員8名

3 会議の概要

- (1) 図書館長あいさつ
- (2) 新任委員及び県立図書館・近代文学館職員の紹介
- (3) 議長・副議長選出
議長に木村文江委員、副議長に須藤紀子委員を選出
- (4) 案件
 - ① 平成30年度組織目標に対する評価について
 - ② 短期行動指針進捗状況について

《お問い合わせ先》 青森県立図書館 企画支援課 電話 017-739-4211

委員の主な意見・要望等

案件（１） 平成３０年度組織目標に対する評価について

○委員

「市町村立図書館等への支援」の項目の目標値「市町村への一括貸出冊数」について、平成２９年度から３０年度にかけて１千冊以上貸出が伸びているのに、令和元年度の目標が平成３０年度と同水準の２万７千冊となっている。もう少し目標値を引き上げてよいのではないか。

■県立図書館

今後は、一括貸出の増加に向けて努力している姿勢を含めて、前年度よりも前進するような目標設定を心がけたい。

○委員

近代文学館の資料収集・保存について、資料はたくさん集まるものなのか。

■県立図書館

文学資料の収集に当たって、最も集めやすいのは、今出版されているものを購入することである。最近の傾向として、家を整理したということで大量に寄贈されるケースが増えている。

○委員

対象に合わせて工夫して事業を行っていると感じた。自分は地方創生・地域活動をする人を支援する取組をしているが、人のそれぞれの段階、学生は勉強の題材として本に触れるだろうし、ハローワークの話もでていたが、就職するときは仕事のことを調べるなどの場面がある。どうやって調べるか、今は簡単に情報は入るが、やはり記録されているもの、文字になっていないと安心できないという面もあって、まだまだ本の可能性も非常にあるなと思った。いろいろな機会に出向いて行って本を紹介するといっても、時間的に大変だと思うが、そういうチャンスを作っていくことで本の可能性も広がっていくと思う。

案件（２） 短期行動指針進捗状況について

○委員

「図書館の活動が見える。」というのは並大抵のことではなく、学校で図書館運営に携わる立場として大変さがよく分かる。昔読んだセピア色の資料がデジタルアーカイブで見られるということに感動している。以前お会いしたことがある長部日出雄さんの資料があのようにたくさん紹介されているのは、資料を丁寧に集めてもらっているということ。学校図書館の運営をしていて、書棚も限りあるので本を捨てなければならない場

面もあるが、なかなか捨てられない。貴重な本であることは分かるので、それをデジタル化して保存できるようになれば、素晴らしいことと思う。カビが生えた本は捨てなさいと言われるが、どうしても捨てたくない本もある。捨てるしかないのだろうか。

■県立図書館

表面だけカビがついている場合は、きつく絞った布地で拭いてもらっていいが、カビの菌が中まで入り込んでしまうと、また出てきてしまう。どうしても残したいものであれば、表紙がカビているだけなら、中身を活かして改装して表紙を掛け替えるという方法もあるので、資料ごとに工夫していくことが重要。本を捨てることは本当に心苦しいことなので、できるだけ活かしてほしい。

○委員

多岐に渡る取組、非常に心強く感じた。私も仕事上でレファレンスをお願いしたりしているが、丁寧に調べてもらって情報提供してもらって大変助かっている。ディスプレイの貸出しで2館7種の実績となっているが、学校図書館が利用しているのか。

■県立図書館

貸出先は市町村立図書館で利用いただいた。活用されたディスプレイの中に高校生が作成したものが含まれているということ。

○委員

多岐に渡って活動していて、初めて知ったことが多かった。一般に知られていないということは、もう少しPRや広報をやった方がよい。県立図書館がこんなことをやっているということが分かれば、使ってみようというようなマッチングにつながっていくと思う。デジタルアーカイブについて質問するが、現在公開点数は何点か。また、著作権の関係があるということは、本よりも資料メインなのか。

■県立図書館

デジタルアーカイブの公開点数は現在377点。御指摘のとおり、古地図や和書が主流である。

○委員

パブリックドメインなど先進的な取組を行っていることを知らなかったが、もっと自慢していい事柄だ。ホームページでジャパンサーチとの連携が掲載されていたが、具体的にどのような連携なのか。

■県立図書館

国会図書館サーチで全国の図書館の資料を検索できるようになっている。そこと連携して、国会図書館で検索してもらおうと、当館でデジタル公開しているアーカイブの一覧が出てくる。例えば笹森儀助で検索してもらおうと、いろいろなところの資料が出てくるが、青森県立図書館でデジタルアーカイブしているものがあると表示されるので、そこから飛んできてもらおうと、当館の画像が見てもらえるということ。

○委員

今聞いて分かったが、ホームページなどでもう少し説明があってもいいし、もっと誇っていい取組と思う。

○委員

当館では、お金がなくてもできる図書館サービス、人口減少が続く中でも近隣の自治体が連携して、司書が頑張れば利用者に届くサービスがまだまだあるのではないかとこのことで、これまで何年かかけて取組を進めてきた。この度、北日本図書館大会でこの取組を発表させてもらう機会を得たことに感謝したい。今後も県立図書館にお世話になるし、サービスを存分に活用させてもらいたい。

○委員

市町村立図書館の活動のモデルとなる「元気な図書館」を育てるとの目標だが、新たに候補となる図書館はあるのか。

■県立図書館

具体的に発表できる段階ではないが、様々な先進的な取組をしている市町村立図書館があるので、県立図書館としてお手伝いできる部分を積極的に支援していきたい。

○委員

市町村立図書館で指定管理者制度の導入が進んでいる。三沢市や弘前市など導入済みであり、八戸市は本館以外が指定管理となっている。市町村立図書館の指定管理者と県立図書館とは、コミュニケーションが取られているのか。

■県立図書館

先ほどから説明している市町村立図書館等に対する様々なサービスは、自治体直営であっても指定管理が入っていても、全て広く県民の方にサービスが行き届くようにやっているのです、県立図書館からのサービスに違いは全くない。